

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 330 回 豊かさの実現：自律的時間繰り

2009.9.20

豊かさの要素に **5 Rich (ファイブリッチ：5 つの豊かさ)** という概念がある。それは **Physical Rich** (健康の豊かさ) **Mind Rich** (こころの豊かさ) **Money Rich** (お金の豊かさ) **Time Rich** (時間の豊かさ) **Family Rich** (人間関係の豊かさ)。この 5 つを深く高めていくことが「豊かさの実現」につながる。この 5 つの中で、よく分かりにくいのが「時間の豊かさ」ではないだろうか。

世界の水準からいって並以上の豊かさを享受している日本の私達にとって、一番「貧しい」もの、それは時間なのではないかと、思うことがある。時間の豊かさとは、一体どういうことなのだろうか？ 今回はそんなテーマでコラムを書いた。

万物共通に与えられた 24 時間、これをどのように使いこなしているか、そのやり方如何(いかん)で、豊かか貧困かが決まってくる。この限られた時間の中で、自分の意志で使っている時間(能動的時間)がどのくらいあるか、逆に他の意思で使われている時間(受動的行動)に振り回されていないか。その差と充実度が豊かさを決定していく...こんな風に考えてみた。

「受動的行動」に翻弄される、つまり時間を奪われたまま過ごすことは、自分のための内省の時間を失うこと、自身のスキルアップ機会を失うこと、イコール自分を失うことである。更には、他人とつきあう時間も失い、従って他人への寛容を失うこと、究極的には私達の良心を失うことなのではないだろうか？ 私達は、何かを「実現」する「能動的な時間」を見失うことに慣れきってしまっ、て、「受動的行動」をなるべく減らすことに怠惰になり過ぎた。この現象が「**時間貧乏**」であり、これを極力無くしていく事が、一人一人の幸せに繋がっていく、そう、考えられないだろうか。

過ぎ去った時間を取り戻すことは不可能だから、同じ時間は 1 秒たりともない。しかしこれから新たに使える時間は沢山あるはず。その 1 秒、1 秒のシーンで、「今、自分は何をしているんだ？ それは自分で選んだことか？」という質問を出来る限り繰り返す。「今」を意識できることが、とりもなおさず失われてゆく時間を取り戻す一歩となるに違いない。

出来る事と出来ない事はもちろんあるが、1 日 24 時間、これを如何(いかに)に有益に使いこなすか？ という事かもしれない。このことは、受動的行動に費消する時間、つまり他律的時間を減少させ、能動的時間 = 自律的時間を増大させる、正に自分自身の「**時間繰り**」の問題に他ならないと思っている。

中小企業経営の要(かなめ)は、「**人繰り、金繰り、時間繰り**」、中小企業経営者にとっても、欠くことのできない「資質」の一つでもある。思考も行動も「指示待ち人間」になりきった人、明確な目標と強固な信念の持てない人、好奇心が無く向上心が無い人、そう、意欲も意識もない、まるで生きる屍(しかばね)...こんなタイプの間人は、絶対と言っていいほど「**自律的時間繰り**」ができない人と言ってしまふ。

増大した自律的時間は、定型化されない点に最大の特徴がある。その時間を自由かつ主体的に創造することこそが、自律的時間たる所以(ゆえん)でもあるわけだ。自らの生き方を創造していくことは、決して容易ではないかもしれないが、人間らしい生き方や、豊かな生活と人生を、真摯(しんし)に追求する人間の営為によってはじめて生み出されるものでもある。

人と同じことをしていれば「進化」できない。昨日と同じ行動を繰り返すのは、「退化」へと進んでいることに気が付くべきである。今こそ「時間」の貧困から解放され、「豊かな時間」を多くの人が共有しなければならない。そのためには、一人ひとりが、能動的時間づくりへの果敢なるチャレンジを、繰り返し実践すべきだと思っている。